

哲学の道デザイン検討会議



第4回会議資料

目次

第4回会議：ゾーニングを踏まえた各区間のデザイン検討

■これまでの検討会議の振り返り

- 第1回 会議の目的
- 第1回・第2回の主な意見
- 第3回のゾーニング案～第3回の主な意見

■路面の種類

- 路面の温度上昇への対応

■各ゾーンの路面デザインのイメージ

これまでの検討会議の振り返り

～第1回 会議の目的～

景観と安全の共存「哲学の道」整備事業において、景観面、安全面の配慮が必要となる哲学の道の路面に関して、周辺景観と調和した設計を進めるため、専門的見地及び地域的視点から意見や助言を求め、京都ならではの良質な道路空間を創出していくことを目的とする。



3

これまでの検討会議の振り返り

～第1回・第2回の主な意見～

R6.10.7

R6.12.17

R7.6.10

第1回

- ・哲学の道の概要について

現地視察

- ・哲学の道
- ・半木の道
- ・賀茂川右岸にある路面
- ・白川筋の路面

第2回

- ・生物の専門家へのヒアリング
- ・路面デザインを検討する際の配慮（検討）項目
- ・舗装の紹介

- ・砂利道は雨が降った後は凸凹するなど生活道路として問題
- ・砂利部分では、沿道住民が土埃の掃除などしており大変
- ・車が通行できる砂利道の区間は、路面の状態が悪い
- ・景観が良いので、大豊神社から南側は砂利道のまま残すことはできないか
- ・砂利道を残すとか、全部舗装するとかの両極端ではなく、それぞれの良いところを残す折衷案を考えたい

配慮
(検討)
項目

生活環境

・未舗装区間では、雨の日に水たまりの発生や砂利が側溝に堆積する問題が発生している
道路の安心・安全（維持管理面）

・生活道路として車も通行するため、砂利道のままというのは現実的ではない

景観

・地道ならではの良さもある

環境

・舗装工事によるサクラの根へのダメージが大きいのではないか

進め方

- ・砂埃などの影響を考慮し、車が通行する区間から優先して段階的に進めるのが良いのではないか
- ・場所に応じたゾーニングを検討していく必要がある

4

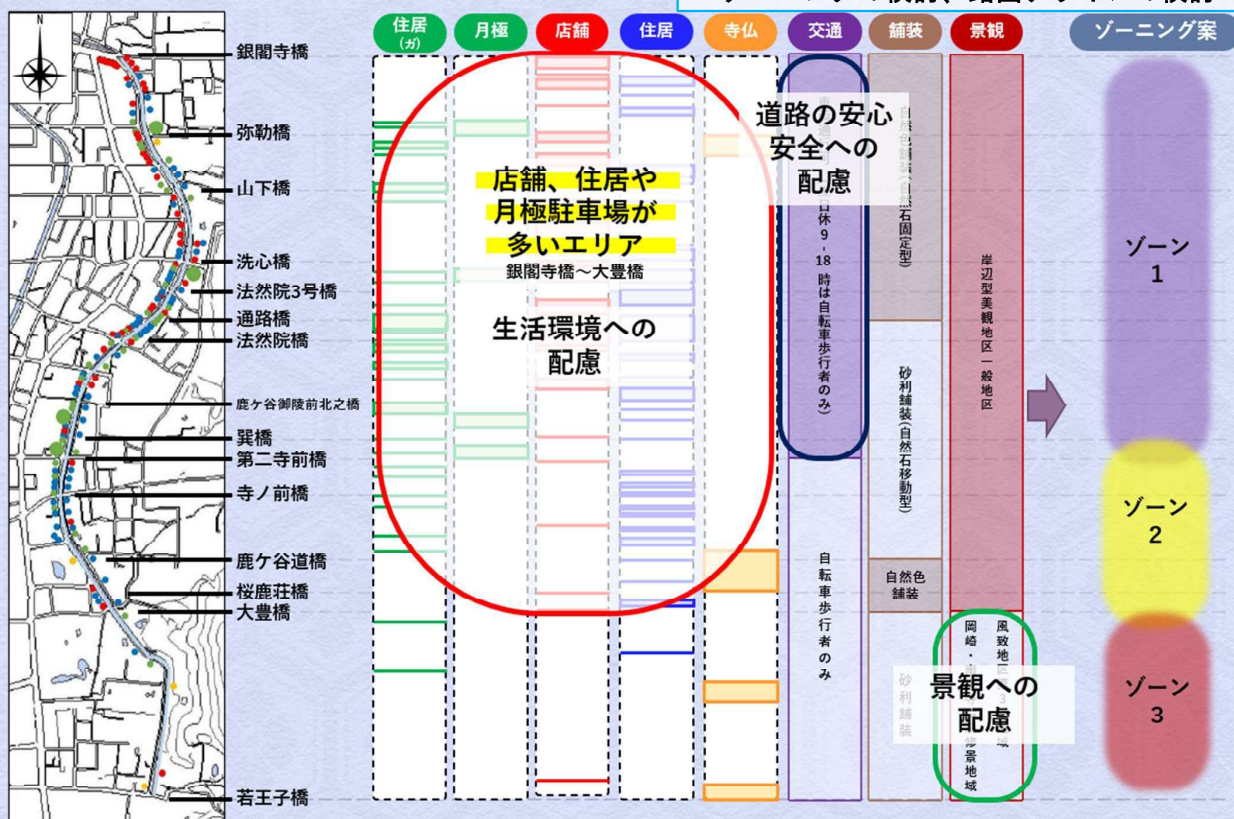
これまでの検討会議の振り返り

～第3回のゾーニング案～

R7.9.26

第3回

- ・試掘調査、樹木医へのヒアリング
- ・ゾーニングの検討、路面デザインの検討



5

これまでの検討会議の振り返り

～第3回的主要意見とまとめ～

第3回 ～試掘、樹木医ヒアリング、ゾーニングの提案、デザイン色の検討～

○ 配慮（検討）項目

生活環境

- ・温度上昇するからといって舗装をしなかったら、生活している方々は苦しいままである
- ・ゾーン1、ゾーン2を優先する必要がある

道路の安心・安全（維持管理面）

- ・竹を繊維にした天然の素材を混ぜるような新しい方法で、より強度を高めつつ、環境に配慮し生活環境にも優しい舗装を検討していく必要がある

景観

- ・色調はYR系（地道色）で低彩度、低明度

環境

- ・舗装するとなれば、1本1本サクラの木の根の慎重な確認が前提ではないか
- ・保水性舗装にすることで、現状よりも環境に配慮した舗装になるのでは
- ・アスファルト舗装はヒートアイランド現象を助長する

生活：砂埃、水たまりへの対応

道路：必要に応じた耐久性、新技術の検討

景観：YR系（地道色）で低彩度、低明度

環境：透水性や保水性で路面の温度上昇を抑制
工事中を含めた植生物等への配慮

○ ゾーニング（整備の方向性）

- ・北側はより強く固め、南側はもう少し弱く固めていく方向性もある
- ・景観に合った透水性の高い舗装が望ましい
- ・車が通るゾーン1はできるだけ石や砂、粉塵が動かず、耐久性があり車に対しても強いものとする
- ・ゾーン3は住居がまばら。また、特に景観への配慮が必要
- ・ゾーン1やゾーン2は、新技術で水はけの良い、さらに湿度も保つような舗装があれば、舗装をし、ゾーン3は現状のまま土で残すというのが今の段階では現実的
- ・土の道で水はけの良い道の研究をしてほしい

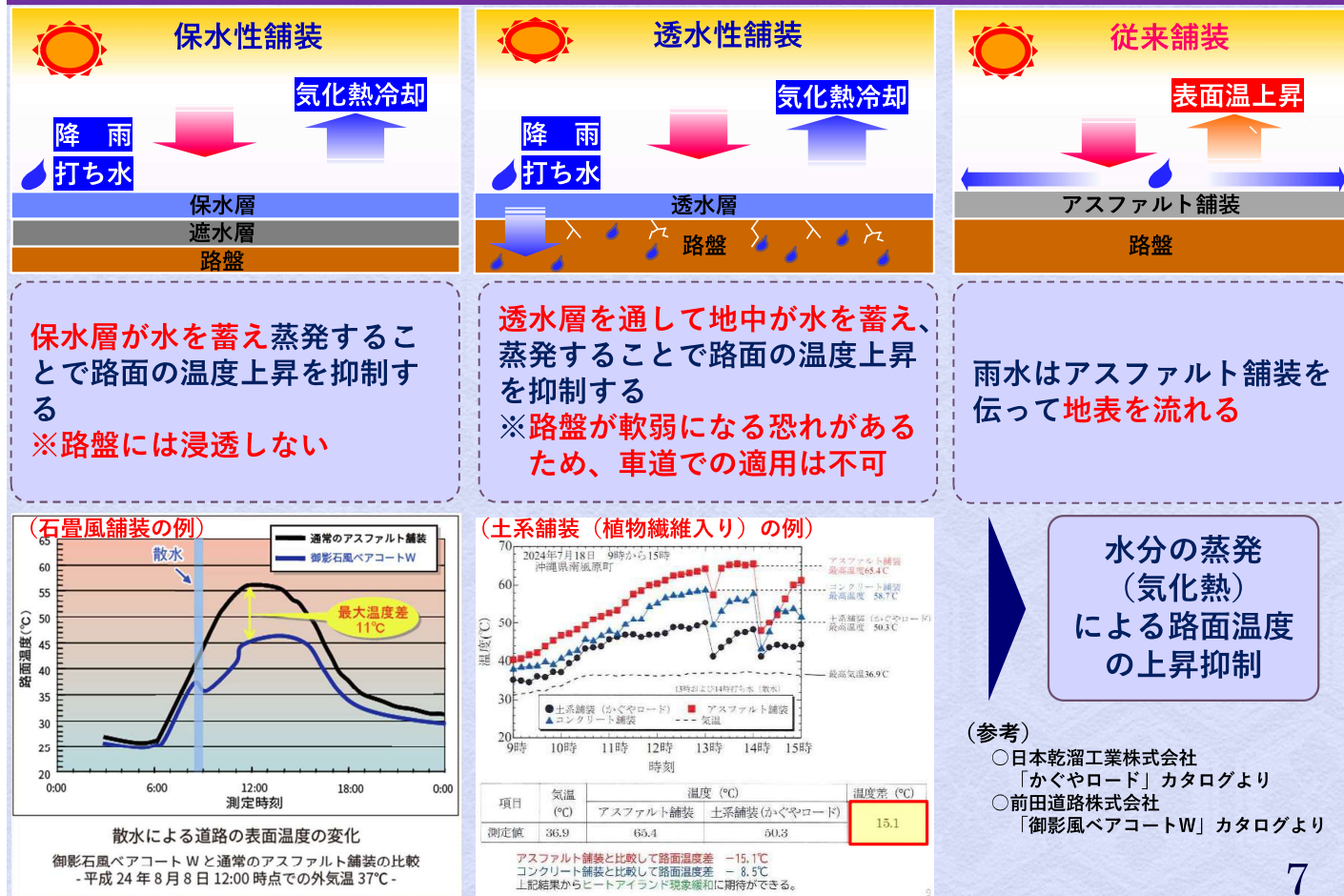
ゾーン1：住居が多く、車両通行可区間
→車両に対応した耐久性

ゾーン2：ゾーン1、3の両方の性質を持つ
→新技術の検討（土系）

ゾーン3：住居が少なく、歩道区間、風致地区
→特に景観への配慮が必要

6

路面の種類 ～路面の温度上昇への対応～



7

各ゾーンの具体的なデザインの検討 ～ゾーン1～



住居等が多い

車両通行可

岸部型美観地区

【求められる路面のデザイン】

車両通行に対応しつつ、環境に配慮した景観系舗装

防塵・平坦性

保水性

段階的に工事

【参考】

現状（自然色舗装）

現状（砂利舗装）

石畳風舗装

保水性が可能
地道色（YR系）へ近づけることが可能

8

各ゾーンの具体的なデザインの検討 ～ゾーン2～



住居等が多い

自転車歩行者
※一部車両通行あり

岸部型美観地区

【求められる路面のデザイン】

生活環境、地域のニーズに合った土系舗装

防塵・平坦性

保水性・透水性

段階的に工事

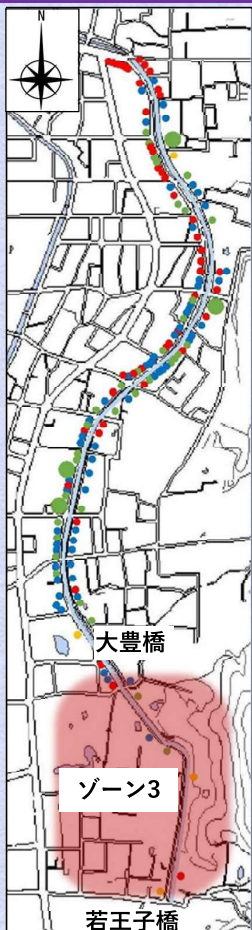
【参考】



道路（歩道）での事例が少ないため、試験施工等により検討を深める。

9

各ゾーンの具体的なデザインの検討 ～ゾーン3～



住居等が少ない

自転車歩行者のみ

風致地区第3種地域、岡崎・南禅寺特別修景地域

【求められる路面のデザイン】

**現状を維持する砂利舗装
自然的景観を維持する土系舗装**

防塵・平坦性

保水性・透水性

段階的に工事

【参考】



10

各ゾーンの路面デザインのイメージ

ゾーニング案	耐久性	環境	景観	イメージ
	車両通行に対応	路面温度の上昇の抑制	YR系 自然の色調 低彩度 低明度	車両通行に対応しつつ、環境に配慮した景観系舗装
ゾーン 2	自転車・歩行者通行に対応			生活環境、地域のニーズに合った土系舗装
ゾーン 3				現状を維持する砂利舗装 自然的景観を維持する土系舗装